

コメント

北陸新幹線延伸ルートの強行決定は許されない。延伸計画はきっぱり中止を 2026年6月29日 日本共産党京都府委員会

与党PT整備検討委員会は、3月に北陸新幹線の「敦賀～新大阪」ルートについて「国会会期中（7月17日会期末予定）にルート決定する」として、6月19日の与党PT整備検討委員会で「8ルート案のB/C」を説明。6月30日には京都府知事、京都市長へのヒアリングを計画するなど強引にルート決定を進めようとしています。

そもそも、北陸新幹線延伸計画は、地下水の問題、残土処理の問題、建設費の膨張問題、大深度地下工事の問題、交通渋滞問題、車両基地予定地域の治水問題など何一つ解決していません。そして、京都仏教会が「千年の愚行」と見解を発表。2025年6月京都市議会では「北陸新幹線の京都市内大深度トンネルルートへの反対決議」があがるなど、「小浜～京都」ルート中止の声は多数です。こうした世論と運動の高まりの中で北陸新幹線「敦賀～新大阪」間の工事は4年間着工できていません。しかも、与党の中からも「どのルートも難しいかもしれない」（与党整備委員会の共同代表・前原衆院議員）と混迷を深めています。にもかかわらず国会会期が迫る中、30日の首長へのヒアリングをてこに「ルート決定」という動きは許されません。

第一に、工事の着工のためには「着工5条件がすべて確認される」ことが条件になっており、その中の費用便益比は「1」を超えることが必要とされています。しかし、北陸新幹線「小浜～京都」ルートは、この間の建設費の大膨張によって費用便益比は「0.5」となっており、「1」には程遠い状況です。ところが、今回示された「一体的」とする新たな立て方は、対象区間を全区間に広げ、費用便益比を「1.1」として「1」をクリアできるようにしたもので、「小浜～京都」ルートという出口ありきの作為的なものと言わざるを得ません。

しかも、西田議員は「費用便益比「1」を超えることにこだわらない」と費用便益比の議論に縛られない姿勢も示し、なにがなんでもルート決定（小浜～京都）に持ち込もうとしています。5月11日の国交省鉄道局長の「（北陸新幹線延伸計画が）B/Cだけで決まるなら政治はいらない。与党PTのヒアリングで知事に話してもらった事柄を普通にマス目を埋めていけばおのずと結論は決まっている」といった発言からみても「小浜～京都ルートありき」で進めようとしていることは明らかです。

第二に、2016年当初2.1兆円と言われていた建設費は、2024年には5兆円に膨張し、さらに今回5.5兆円～5.8兆円に。京都府知事・京都市長からも「財政の余裕はない」「受益と負担のバランスが取れないものは市民に説明がつかない」（松井京都市長）「受益に応じた負担にしてほしい」（西脇知事）の声が出ており、自治体財政を圧迫し命・暮らしを支える予算に影響が出ることは明らかです。

第三に、地下水など環境への影響です。2024年の「財政審」は、着工5条件の確認に加え、「ヒ素などの自然由来重金属などが含まれる要対策土の処理の問題、トンネル工事による地下水の流れへの影響などについても十分に検討・評価を行う必要がある」と報告しています。2025年6月の

京都市会の決議では「地下水への影響、ヒ素を含む大量の残土処理、工事期間中の渋滞、地元負担の非提示、住民への情報非開示、歴史的・文化的建造物への影響、根本的なB/C採算性などについて問題ある状況・・・」と問題点を挙げていますが、国土交通省からはまともな対策は示されていません。とりわけ地下水への影響について、鉄道運輸機構は、3月「地下水への影響は限定的」とする報告書を出しました。報告書では、京都市の地下鉄東西線工事における地下水への影響があったことを認めただけで、地下鉄東西線工事での地下水への影響について再現解析を行った結果「実績を十分再現できなかった」とされており、解析に失敗したモデルが使われています。数値や設定条件の妥当性をめぐって専門家からは「データ不十分、結論の信ぴょう性疑問」の声が上がっており、客観的な検証が必要です。

第四に、2025年3月に説明会が開かれましたが住民の納得は得られていません。その際「説明会はこれで終わりでない」「住民が納得できるように今後京都府と調整していく」と言いながら一切説明会につながる動きはありません。

こうしたさまざまな問題を置き去りにし、「7月ルート」決定のために、新たな費用便益比の算定基準まで持ち出し、首長へのヒアリングを強行しようとする与党PT整備検討委員会の強引なやり方は断じて許されるものではありません。30日に行われる京都府知事、京都市長へのヒアリングは、「7月ルート」決定にお墨付きを与えることになってはなりません。京都府知事、京都市長は、「ルート決定」に同意できないことを明確に伝えるべきです。

日本共産党京都府委員会は、党としての宣伝活動を強めるとともに、府民・市民と共同して「ルート決定」許さない、さらに「北陸新幹線延伸計画」そのものをストップさせる大きなうねりをつくりだすために全力をあげます。

以 上